＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	第3271400404号
法人名	雲南福祉サービス株式会社
事業所名	グループホーム加茂の郷
訪問調査日	平成　21　年　　9　月　　8　日
評価確定日	平成　21　年　　10　月　　26日
評価機関名	株式会社　ワールド測量設計

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成 21年 9月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	第3271400404号
法人名	雲南福祉サービス株式会社
事業所名	グループホーム加茂の郷
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706番4 （電　話）(0854)49－8426

評価機関名	株式会社　ワールド測量設計		
所在地	出雲市荻杼町274－2		
訪問調査日	平成21年9月8日	評価確定日	平成21年10月26日

【情報提供票より】(21年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成　17 年　1 月　27 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	20　人	常勤　15　人，非常勤　5 人，常勤換算　8.2　人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1 階建ての　1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000　円		その他の経費(月額)	
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)		有りの場合 償却の有無	有 (5年)
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,340　円			

(4)利用者の概要(10月 22日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	6	名	要介護2	4	名
要介護3	3	名	要介護4	3	名
要介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢	平均	86 歳	最低	76 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立雲南総合病院 ・ 奥出雲コスモ病院 ・ 清水医院 ・ 山本歯科医

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

神話と歴史に彩られた加茂岩倉遺跡に近い国道から、小高い丘に見える、落ち着いた木造の建物である。「プライバシーを尊重するため、むしろ死角を大切にしたい」という思いで設計されており、利用者は落ち着いて生活されている。庭先や玄関には、常時、季節の花が咲き、利用者や来訪者の心を和ませている。民家と離れている為に、地域との関わりが難しい環境にあるが、地域の祭り、運動会、文化祭に参加したり、事業所の納涼祭にはそば打ちなどのボランティアの協力もあり、近隣の方や利用者家族も参加されている。又、年2回の大掃除には利用者家族や企業ボランティアも参加され、作業後には交流の時間が設けられている。

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)** 前回改善を求められた、入浴時間ついては、全職員で話し合う機会をもち、職員全体の意識あわせを行ったが、見直しには至っていない。利用者の尊厳を大切にした言葉遣いや態度については、研修を行い、機会あるごとに話し合い、職員の意識向上を図るなど、改善に向けた取り組みがなされていた。 **今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)** 今回の自己評価は、管理者を中心に管理職員だけで話し合われ、一般職員の自己評価への取り組みはみられなかった。全職員で自己評価にとりくむことが大切であり、日々のケアを振り返り、課題を明らかにしたり、職員の意識やスキルアップにつなげて頂きたい。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)** 4ヶ月に1回、定期的に開催されている。利用者家族や地域の方に参加頂き、利用状況や活動報告、要望・意見を聞く有意義な場になっている。事業所からは管理職員が参加し、内容や議題は職員会議の時に、報告している。家族同士のつながりを強めたいとの希望があり、納涼祭への家族案内や年末大掃除の作業後に交流時間を作るなどの働きかけをしている。決まったメンバー以外に、ゲストを招いての話し合いは、内容を深め、話題の広がりから、新たな発見が期待されます。又、交代で一般職員も参加されるとよいでしょう。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)** 毎月、請求書と、写真入りで利用者の活動の様子がわかる「かも郷だより」を家族に郵送している。職員担当制を導入しており、利用者ごとに担当職員が書いた、近況報告の手紙も同封している。利用者や家族とより馴染み深い関係を構築し、毎月の手紙や来所の際に、サービスに関する意向や要望を伺っている。又、広く皆さんからの意見・要望を聞くために玄関に手作りの意見箱も設置された。運営推進会議や事業所行事に家族が参加される機会も作り、家族との信頼関係の構築に努めている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)** 民家と離れている為に、地域との関わりが難しい環境にあるが、地域の祭り、運動会、文化祭に参加したり、事業所の納涼祭にはそば打ちなどのボランティアの協力もあり、近隣の方や利用者家族も参加されている。広報誌は、地元自治会や運営推進会議のメンバーが在籍される近隣自治会にも配布し、理解、協力につなげている。又、年2回の大掃除には利用者家族や企業ボランティアも参加され、作業後には交流の時間が設けられている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“利用者の立場に立って、その人らしい、尊厳ある生活を地域とのつながりの中で支えていく”といった事業所独自の理念が掲げられている。	○	開設5年目を迎え、現場スタッフも含め、「自分達の理念」として全職員で話し合う機会を持たれることをお勧めします。職員の意識が高まり、毎日の実践に反映していけるのではないでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に掲示するとともに、パンフレットにも記載し、利用者や家族にも伝えている。理念そのものを話題にしてはいないが、日常の各種会議の中で、理念に沿った内容で協議している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民家と離れている為に、地域との関わりが難しい環境にあるが、地域の祭り、運動会、文化祭に参加したり、事業所の納涼祭にはそば打ちなどのボランティアの協力もあり、近隣の方や利用者家族も参加されている。広報誌は、地元自治会や運営推進会議のメンバーが在籍される近隣自治会にも配布し、理解、協力につなげている。又、年2回の大掃除には利用者家族や企業ボランティアも参加され、作業後には交流の時間が設けられている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回改善を求められた、入浴時間ついては、全職員で話し合う機会をもち、職員全体の意識あわせを行ったが、見直しには至っていない。利用者の尊厳を大切にした言葉遣いや態度については、研修を行い、機会あるごとに話し合い、職員の意識向上を図るなど、改善に向けた取り組みがなされていた。今回の自己評価は、管理者を中心に管理職員だけで話し合われ、一般職員の自己評価への取り組みはみられなかった。	○	全職員で自己評価に取り組むことが大切です。定期的に日々のケアを振り返り、課題を明らかにしたり、職員の意識やスキルアップにつなげましょう。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回、定期的に開催されている。利用者家族や地域の方に参加頂き、利用状況や活動報告、要望・意見を聞く有意義な場になっている。事業所からは管理職員が参加し、内容や議題は職員会議の時に、報告している。家族同士のつながりを強めたいとの希望があり、納涼祭への家族案内や年末大掃除の作業後に交流時間を作るなどの働きかけをしている。	○	決まったメンバー以外に、ゲストを招いての話し合いは、内容を深め、話題の広がりから、新たな発見が期待されます。又、交代で一般職員も参加されるとよいでしょう。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併前の誘致施設であり、連携は密に行っている。困難事例があれば、包括支援センターとも連携している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書と、写真入りで利用者の活動の様子がわかる「かも郷だより」を家族に郵送している。その時に、利用者ごとの担当職員が書いた、近況報告の手紙も同封している。運営推進会議や事業所行事に家族が参加される機会も作り、家族との信頼関係の構築に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員担当制を導入しており、利用者や家族とより馴染み深い関係を構築し、毎月の手紙や来所の際に、サービスに関する意向や要望を伺って対応し、利用者の把握に努めている。又、広く皆さんからの意見・要望を聞くために玄関に手作りの意見箱も設置された。		今後も現状にあった家族交流を工夫され、意見や要望を汲みとる機会となるように期待している。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	二つのユニットを全職員で、利用者全員を把握、継続した馴染みの関係を作っており、日によって交替しても利用者にダメージはみられない。利用者には、新入職員の紹介はしているが、退職の時には、その時の状態に応じてお知らせし、動揺がないように配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は1ヶ月の試用期間を設け、先輩職員が付いて指導を行っている。研修は出掛けやすいように勤務扱いとされ、参加後には、復命研修を行い、全職員が共有している。年間行事計画に掲げた行事ごとに、担当職員を決めており、各職員が責任を持つことで成長につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しまね小規模ケア連絡会や地区のグループホーム部会には積極的に参加し、他事業所との交流や情報交換を行っている。	○	今後は職員同士の親睦にも力を注がれ、一般職員も部会や連絡会に交代で参加したり、意見交換や実習などを通じてサービスの向上や職員の育成にも役立てて頂きたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネを通しての相談ケースが多いものの、家族が見学に来られるケースが増えてきている。利用開始までに調査訪問に伺い、利用者と顔を合わせ、馴染みの関係作りに努めているが、入居を急がれる家族が多く、難しいこともある。今年度からホームでの共用型通所介護が開始され、状況によって活用しながら入居につなげていきたいとも考えている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	笹巻き作りなど季節の行事やしきたりを、利用者から教わることが多い。又、食事の準備や片付けを一緒にしながら、家庭の話などしていると、主婦の先輩として助言や励ましを頂くことがある。利用者同士も感謝の言葉をかけあいながら生活されていた。		
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分なアセスメントから生活歴を把握し、担当職員を中心に、常に利用者に寄り添い、日々の言動から、利用者の思いや意向の把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の意向は、初回面談で話し合ったことを活かし、本人の希望は、日々の関わりの中から推測している。ケアカンファレンスで検討し、職員会議で共有している。	○	出来あがったプランを提示するだけではなく、家族との会話の中でも、介護計画という意識を持ってもらい、一緒に考えたプランという認識を持てるように働きかけましょう。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	記録用紙は何度も改善して出来上がった独自の書式を使っている。毎日の介護記録は、各ページ上にケアプランが記されており、いつも意識して関わり、毎日丸印をつけて評価出来る様式になっている。3ヶ月ごとの見直しとともに、状況の変化に応じて適宜見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共有スペースを利用した通所介護も開始され、切れ間無い継続した馴染みの関係を期待している。買い物支援や、家族の事情によっては通院介助もしている。二つのユニットは、あえて職員を兼務させることで、継続した馴染みの関係を作っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医と連携し、利用者の希望される主治医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、家族の事情や利用者の状態により、往診や職員の受診介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	3名の看護職員により、24時間365日、いつでも相談出来る体制にあり、適切な医療が受けられるように医療連携が図られている。入居時に、終末期についても記載されている「医療連携体制」について書面で説明し、家族からの同意を得ている。実際に、医療要素が強くなったケースでは、主治医や家族の意向を確認した上で職員間で協議、共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的や取り扱いは家族に説明し、書面で同意を得ている。利用者の写真の掲載がある広報誌については、利用者家族に別の書面で確認をとり、配慮した上で使用している。利用者の尊厳を大切にした言葉遣いや態度について研修を行い、注意を促している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でポットにお湯を沸かし、仏壇にお供えされる方もある。自分で金銭管理されている方もあり、職員と一緒に買い物に出かけることもある。家族との外出、職員と個別による外食やドライブ等、出来る限り利用者の願いを叶えるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が準備から片付けまで一緒に行い、食事は全職員が同じ料理を一緒に食べられていた。調理は、専属の職員と利用者が、一方のユニット厨房に集まり、両ユニット分の準備をしている。2か月に1回のバイキング方式や誕生日には、本人の希望の献立や外食を楽しまれている。	○	利用者の食事ペースを崩さないように配慮されていますが、利用者への言葉かけや利用者を中心とした団欒を楽しんで頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は毎日でも入浴出来るが、入浴の時間帯は13時から16時に決めている。入浴を嫌がられる方があり、温泉施設に出かけ、職員と一緒に入浴したケースもあった。	○	入浴は職員にとっても、利用者と1対1でゆったりと話が出来る有意義な時間でもあります。これまでの生活歴において、入浴に対する希望やこだわりの時間があるのかも知れません。利用者や家族の意向を確認し、出来る範囲で叶える努力をお願いしたい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き、食器拭きなど出来る事を見つけて力を発揮してもらう機会を作っている。有償、無償ボランティアの来所や地区の夏祭りや餅まきなどの行事に参加したり、花が好きで眺めたり、水やりをされる方、畑づくりを手伝って下さる方もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い時は、庭で日向ぼっこや広い敷地を散歩したりしている。受診後に自宅へ立ち寄ったり、職員と買い物や外食を楽しむ時もある。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、ユニット間も自由に出入りしている。鍵をかけることの弊害は全職員が十分理解している。出かけられても職員が一緒に出かけ、見守っている。ただし、全室掃き出し窓の為、転倒、骨折の危険がある方には、家族と相談して窓に施錠させていただく場合がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練が年2回あり、訓練後の講評や職員の感想が記録されている。地域の消防団の参加もある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態にしている。水分補給は、食事やおやつの時間以外にも、ホールで欲しい時に自由に飲めるようになっている。又、希望される方には、居室に毎朝配茶されている。必要な方には水分摂取状況をチェックしている。食事摂取や排泄については記録に残し、職員間で共有している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にベンチや花を植えた沢山のプランターが置かれ、庭や玄関にも季節の花が飾られ、いつでも利用者や訪れる者を楽しませている。大きな手作りカレンダーや写真、催しのお知らせ等、壁は多彩に飾られている。食堂の照明も工夫されており、トイレや汚物室にも不快な臭いは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋がわかりやすいように、手作りのネームプレートが掛けられている。家具は全て持ち込みで、家族の写真を飾られた部屋、ベッドを使用される方、畳を敷かれている方、仏壇やテレビ、冷蔵庫を持ち込まれている方など各々の個性がみられる居室になっていた。		